

地域を学ぼう！ うんな中学校1年生の総合学習

うんな中学校の担当の先生から中学1年生の総合的な学習の時間を利用して村内の史跡や歌碑を学ぶ機会にできないかと相談がありました。村社会教育コーディネーターと連携して、村内の歴史ロードや史跡・歌碑めぐりを座学と現地見学の3回に分けて行うこととなりました。

生徒、保護者、先生方、地域の皆さん、コーディネーター、村文化協会、博物館職員、社会教育課職員など多くの方々との連携で実現することができ、子どもたちが今、住んでいる地域のことを知る良いきっかけとなりました。

事前学習

4月22日にうんな中学校で歴史ロード講座を行いました。講師は文化係がつとめ、歴史ロードや周辺の文化財について説明しました。

実際にアラバークヤティールを頭に乗せ、昔の人の荷物の運び方などを体験しました。



歴史ロードを歩く

5月13日に歴史ロードの見学を行いました。クラスごとに、仲泊遺跡、護佐丸父祖の墓、山田の神アサギ、久良波大主の墓、山田谷川（ヤーガー）の石碇（いしばし）を回り、博物館職員が各史跡などについて説明しました。

仲泊遺跡では約3,500～2,500年前の縄文時代の各貝塚や住居跡、琉球王国時代の比屋根坂石畳道のほか高麗人墓を見学し、仲泊遺跡がどういったところなのか、当時の人々がどのような場所で生活していたのかなどを学びました。

護佐丸父祖の墓は、山田城跡の中腹に位置する琉球石灰岩洞穴を利用した墓です。墓の前にある石碑には1714年に墓の修復が行われたこと、1750年にはこの石碑が建てられたことが記されており、「出来ることなら、墓の中がどのようなになっているのか見てみたい」など関心を持つ生徒も見られました。

その後、歴史のロードである国頭方西海道を歩き、当時の雰囲気を感じながら、神アサギと久良波大主の墓を巡りました。神アサギは山田の成立最初の火の神が祀られており、五穀豊穰と無病息災を祈願する拝所です。一方、久良波大主の墓は伝承で護佐丸の異母弟であるともいわれる久良波大主が祀られています。山田区では彼岸や清明祭に礼拝し、大切にされている場所です。

山田谷川の石碇は歴史の道の一部で、琉球石灰岩を野面積みにした橋脚部分に石を乗せてアーチ形式を施した石碇です。石碇の架かる川ではかつて畑仕事を終えた若者が水浴びをしていました。生徒たちは石碇の高さや構造に驚いており、足元に注意しながら、川を覗き込んだりするなど、興味津々でした。

梅雨の中休みの暑い中、生徒たちは現地を歩きながら、解説をしっかりと聞いていました。分からないことを質問している姿も見られるなど地元の歴史について熱心に学習している様子がうかがえました。